



河小だより

校区内
全戸回覧

7月20日発行

短くなくても夏休み ～いっしょうけんめい楽しんでください～

校長 山田 裕之

約50年も前になりますが、私は小学校時代の夏休みのことを覚えています。

- 1年生：1日ばかりで描いた海水浴の「図画」がコンクールに入賞し、副賞として目覚まし時計をもらった。当時の私には、目もくらむほどうれしい賞品だった。
- 2年生：この年開催された大阪万国博覧会の「太陽の塔」を、卵の殻を使った「モザイク画」として作製した。夏休み明けに学校へ持っていこうとしたところ、パリパリはがれてしまい、あわてて作り直した。
- 3年生：初めて「植物標本」に挑戦した。「ただ集めるよりはテーマを決めた方がよい」と担任の先生が薬草の本を貸してくれたので、『薬草標本』として出品したところ、科学作品展でいい賞をもらった。
- 4年生：家の水槽に付いていた貝（モノアラガイ）を観察してまとめ、「科学研究」として提出した。先生がいっぱい直してくれたため、発表会で1位となり、佐渡代表として県の発表会に参加した。
- 5・6年生：水泳部に所属し、平泳ぎと背泳ぎの選手として「水泳大会」に参加した。当時の大会はいつもどこかの小学校のプールで行われたため、いろんな学校に行くのも楽しかった。



勉強したことは何も思い出せませんが、「活動したこと」や「体験したこと」は今でも鮮明によみがえってきます。きっと、それらの活動や体験に、当時の自分がいっしょうけんめい打ち込んだからだと思います。

もうすぐ夏休みが始まります。今年は少し短くなったとはいえ、小学校生活の中で最も長い休業であることは変わりません。感染症対策のためできなくなってしまったこともあります。できることもまだまだたくさんあるはず。「令和2年の、自分が小学校□年生だったときの夏休みの思い出は〇〇だ！」と大人になってからも思い出せるような長期休業であってほしいと願います。

そのためには、1つでも2つでも「これは絶対がんばる！」という目標を立てて実行することが大切です。もちろん、のんびり楽しむ日があっても構いません。でも、「いっしょうけんめい楽しむ」ことができた人こそがいつまでも心に残るいい思い出を作ることができるのだと、私は信じています。